

「港湾取扱貨物の見通し」について

平成23年4月14日
国土交通省港湾局

「港湾取扱貨物の見通し」の見直しについて

見直しの必要性

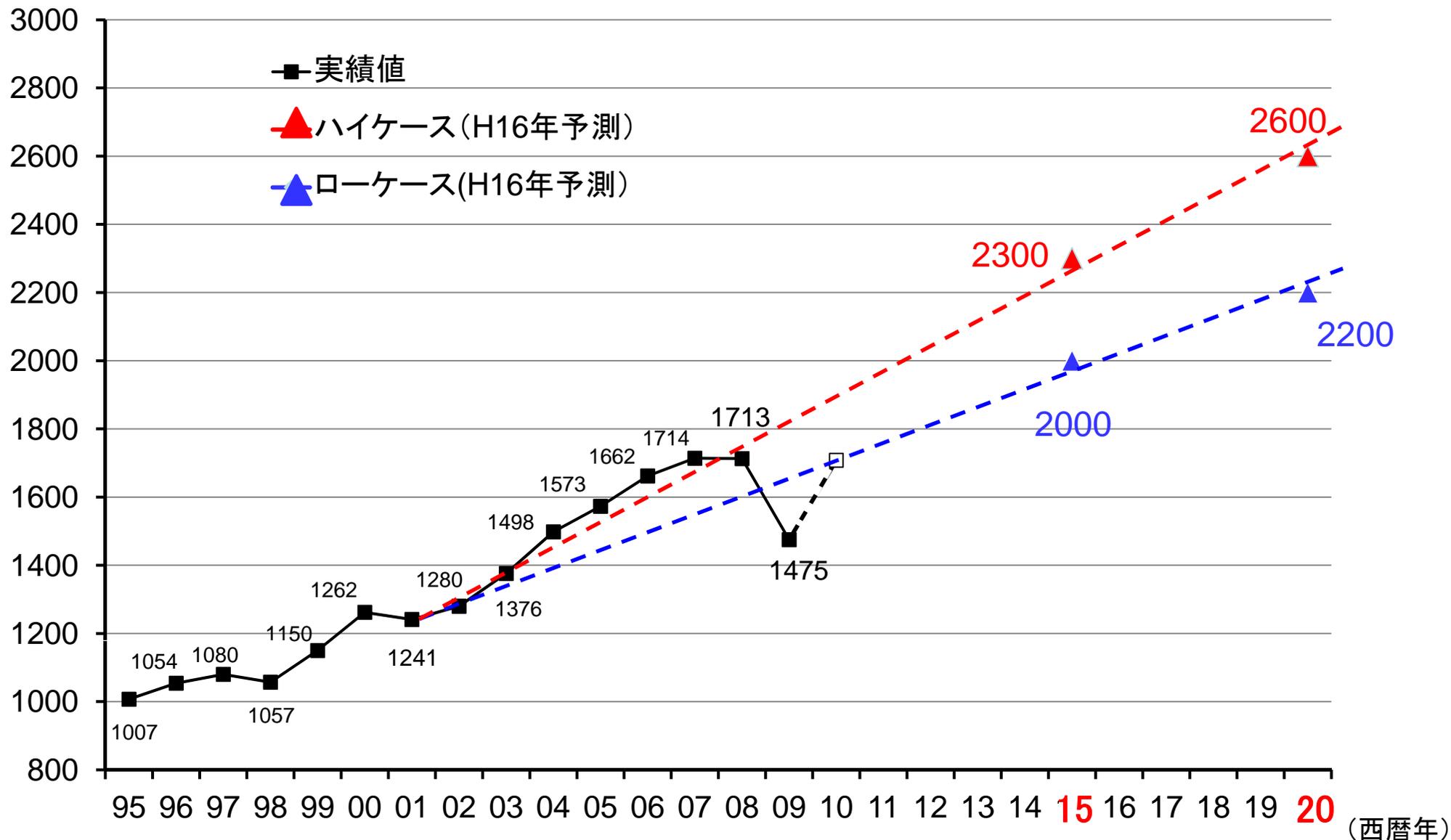
- 基本方針において、国際海上コンテナ及び内貿複合一貫輸送に係る取扱貨物量の見通しを示している。
- 国際コンテナ戦略港湾の選定により我が国のコンテナ輸送が大きく変化していくこと、また、高速道路料金の割引、無料化などフェリー、RORO船の輸送に大きな影響を与えていることなどから、国際海上コンテナ及び内貿複合一貫輸送に係る「取扱貨物量の見通し」の見直しを行う。

見直し方針

- 国際海上コンテナ貨物
港湾分科会において、国内外の経済情勢など専門的な知見を踏まえつつ、需要予測モデルにおける推計手法、将来フレームの設定などについて検討を行う。
- 内貿複合一貫輸送貨物
陸上輸送モードとの競合関係などを踏まえ、省内に設置している「将来交通需要推計検討会議」において各モード(港湾、道路、鉄道、航空)間の推計手法を統一した『統合モデル』を構築し、その推計結果を港湾分科会に報告する。

我が国の輸出入コンテナ貨物量の実績と基本方針の推計値（2004年）

(万TEU)



出典: 港湾統計(年報)、関係資料をもとに作成

注) 2010年値は、8大港の月別の速報値、8大港の対全国シェアなどをもとに算定した実績(推計値)である。

貿易モデルにおける見直しの検討状況

見直しのポイント

国際海上コンテナ貨物量の需要予測において、貿易モデル(我が国全体の国際海上コンテナ貨物量の予測)に影響を与える主な要因である、経済成長(GDP)、経済連携、為替レート、産業構造変化について検討。

検討状況	見直しの論点	設定(案)
項目		
経済成長率(GDP)	GDP成長率の設定にあたっては政府等で設定している値を用いることとする。但し、設定のない年次については過大設定とならないよう留意が必要。	<p>【日本】 基本ケース:IMF長期見通し ハイケース:新成長戦略の設定(2020年迄:年率2%、2021年以降:年率1.4%) ローケース:国土交通省将来需要推計検討会議の設定</p> <p>【海外】IMFの長期見通しをもとに設定(2010年~2015年はIMF予測値。2016年以降は2000年以降の平均成長率、2015年予測値のうち低い成長率。但し、中国については、中国の政府目標も勘案し、2016年以降は7%に設定。)</p>
為替レート	為替の設定にあたっては、近年の為替の動向を踏まえた設定が必要。	<p>基本ケース:90円/US\$ 感度分析:基本ケースから±15円/US\$</p>
経済連携	他国との経済連携の設定にあたっては、農産品の関税率の撤廃に係る考慮も必要。	<p>基本ケース:「発効済」「調印済」「大筋合意」の12ヶ国(シンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシア、ブルネイ、フィリピン、スイス、ベトナム、インド、ペルー)+ASEANの関税率を2020年、2025年とも「0」</p> <p>ハイケース:「交渉中」「交渉開始合意」「構想・検討段階」の主要国・地域(中国、米国、豪州、NZ+EU*)の関税率を2025年より「0」(但し、農産品は要検討)</p>
産業構造変化	産業構造変化の設定にあたっては、海外生産比率が上昇している実態を踏まえた設定が必要。	<p>基本ケース:国際分業の進展による調達先、輸出入額の近年の変化を将来に展開</p>

今後の作業

1. 全国貨物量のハイケース、ローケースの設定

○要因別感度分析結果をもとに、我が国GDP、為替、経済連携、産業構造などを変化させた時の将来のケースを下表のとおり設定し、各ケースの貨物量を算出した上で、全国貨物量(ハイ・基本・ローケース)を決定する。

ケース	我が国のGDP	為替レート	経済連携	産業構造変化
ハイケース1	新成長戦略	105円/ドル	「交渉中」「交渉開始合意」「構想・検討段階」の主要国・地域(4ヶ国+EU諸国)の関税率を2025年より「0」(農産品は要検討)	国際分業の進展による調達先、輸出入額の近年の変化を将来に展開
ハイケース2		90円/ドル		
ハイケース3		75円/ドル		
基本ケース	IMF設定	90円/ドル	「発効済」「調印済」「大筋合意」までの13ヶ国・地域の関税率2020年、2025年とも「0」	国際分業の進展による調達先、輸出入額の近年の変化を将来に展開
ローケース1	国交省設定(将来需要推計手法検討会議)	105円/ドル	「発効済」「調印済」「大筋合意」までの13ヶ国・地域の関税率2020年、2025年とも「0」	国際分業の進展による調達先、輸出入額の近年の変化を将来に展開
ローケース2		90円/ドル		
ローケース3		75円/ドル		

2. 港湾選択モデル(我が国港湾の港湾別の貨物量の予測)

○国際戦略港湾の施策展開を踏まえた港湾諸費用、リードタイム、寄港するコンテナ船の平均船型や寄港頻度等の諸条件の設定を行った上で、港湾別の貨物量を推計する。